

## 実効性の高い避難訓練の在り方

### 緊急地震速報対応訓練（告知版）

札幌市立真駒内曙中学校

#### 1 ねらい

- (1) 緊急地震速報を見聞きした際などにあわてずに身を守るなど適切な行動がとれるようにする。（災害発生時に備える日常の心構えと行動の確認）
- (2) 避難訓練の基本的動作を身に付けさせる。（話をしない、速やかな行動）
- (3) 教職員は対応行動について決めておき、実践してみる。（特別教室等で授業の場合を想定して）

#### 2 想定する災害等

- (1) 災害の種類  
地震
- (2) 発生時間  
10:00頃
- (3) 発生場所  
各活動場所（教室、特別教室等）

#### 3 避難訓練のポイント

- (1) 心構えをつくる  
いつ、緊急放送を聞いても、周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する気持ちでいることが大切である。
- (2) 行動の確認  
緊急放送を聞いたら、頭を守る、危ないところから離れて、安全な場所に避難する。お店などでは、指示に従う。など、次に行動すべきことを確認しておくことが大切である。
- (3) シェイクアウト訓練  
「まず低く、頭を守り、動かない」という地震の際の安全確保行動を身に付ける。

#### 4 生徒に指導する内容

朝の学活で、今日は緊急地震速報の訓練があることを伝える。全員にチラシ（気象庁の緊急地震速報～地震による強い揺れを事前にお知らせ～）を配付する。担任の教師が説明をする。



#### 5 教職員の動き

教頭が緊急地震速報対応行動訓練のアラーム音及びアナウンスを流す。教師は生徒に、「まず低く、頭を守り、動かない」ように指示する。安全確保行動の終了後、生徒が適切な行動がとれたかを評価する。事後に反省用紙に記入して、次回に備える。

#### 6 評価項目

- (1) 緊急地震速報の意味を理解したか。
- (2) 静かに指示を聞くことができたか。
- (3) 訓練時に適切な行動をとることができたか。
- (4) 訓練に真面目に取り組んだか。
- (5) 訓練の大切さを理解することができたか。

## 実効性の高い避難訓練の在り方

### 緊急地震速報対応訓練（非告知版）

札幌市立真駒内曙中学校

#### 1 ねらい

- (1) 1回目の緊急地震速報訓練の成果を確認するために、予告無しで実施をして、自分の身を守る行動がとれるかを確認する。
- (2) 休み時間に訓練を行い、教師がいない場面で、身を守る行動がとれるかを確認する。
- (3) 当日、教職員は校内の所定の位置につき、生徒を観察して、自分の身を守る行動が身についているかを確認する。また、今後の訓練の在り方を考える。

#### 2 想定する災害等

- (1) 災害の種類  
地震
- (2) 発生時間  
13:30頃
- (3) 発生場所  
各活動場所（教室、特別教室、廊下、体育館等）

#### 3 避難訓練のポイント

- (1) あわてない心構えをつくる  
前回の訓練を思い出し、緊急放送を聞いても、周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する気持ちでいる。
- (2) 行動すべきことを思い出す  
緊急放送を聞いたら、頭を守る、危ないところから離れて、安全な場所に避難する。お店などでは、指示に従う。等の行動すべきことを思い出す。
- (3) シェイクアウト訓練  
「まず低く、頭を守り、動かない」という地震の際の安全確保行動を身に付ける。

#### 4 生徒に指導する内容

1週間前の学活で、いつ緊急地震速報が流れても前回の訓練を思い出し、適切な行動をとれるようにしておくことを伝える。全員にチラシ（気象庁の緊急地震速報～地震による強い揺れを事前にお知らせ～）を配付する。

訓練当日は訓練の実施等について知らせない。



#### 5 教職員の動き

教頭がはじめに訓練を行うことを伝え、緊急地震速報対応行動訓練のアラーム音及びアナウンスを流す。教師はそれぞれの場所で、「まず低く、頭を守り、動かない」ように指示する。安全確保行動の終了後、評価をし反省用紙に記入して、次回に備える。

#### 6 評価項目

- (1) 緊急地震速報の意味を理解したか。
- (2) 静かに指示を聞くことができたか。
- (3) 訓練時に適切な行動をとることができたか。
- (4) 訓練に真面目に取り組んだか。
- (5) 訓練の大切さを理解することができたか。
- (6) 自分がとるべき行動を考えることができたか。
- (7) 訓練が役にたったと感じたか。